

「対話的な学び」の視点の充実に向けて（外国語活動・外国語科）

外国語教育における「対話的な学び」とは、どんなことでしょうか？



【外国語教育における対話的な学び】

- 表面的なやり取りのことではなく、他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い、自らの考えを広げたり深めたりすること。
- 書かれたものを読んで社会や世界について知ったり、他者の考え方を学んだり、自らの考えを深めたりすること。（文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』より）



外国語教育での「対話的な学び」の実現に向けて、

- 他者と情報や考えを伝え合う活動
- 他者を尊重しながら対話を図る活動
- 他者の考えに触れて自らの考えを振り返ったり深めたりする活動

等を取り入れていくとよさそうですね。

考えを伝え合う活動をするのに、注意することはどんなことでしょうか？



学習指導要領の目標と関係がありそうです。確認してみましょう。



目標（小学校外国語）

（等は加筆によるもの）

外国語によるコミュニケーションにおける **見方・考え方** を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの **言語活動** を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（小学校学習指導要領 H29 より）



この目標にある「言語活動」は、「外国語活動や外国語科における言語活動」のことです。どのような活動かを確認しましょう。

【外国語活動や外国語科における言語活動】

○実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動

※ 以下の活動は、外国語活動や外国語科においては言語活動とは言い難いものです。

- ・ 英語を用いず、日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成する活動
- ・ 英語を用いているが、考えや気持ちを伝え合うという要素がない活動

（文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』より）

つまり「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動」を行う場面設定を意識することが、「対話的な学び」の視点を充実させるために重要です。



そうですね。その際に大切なのが、「**見方・考え方**」を働かせるということです。それが「対話的な学び」の視点を充実させ、「深い学び」の実現や、**外国語科（活動）の目標を達成すること**につながっていきます。



では、「見方・考え方」を働かせ、「対話的な学び」を実現している姿は、どんな場面が考えられるでしょうか？



例えば、次のような場面が考えられます。また、活動が制限されている今、「対話的な学び」を充実させるための工夫についても、考えてみましょう。

【単元、授業の導入の場面や対話を通して互いの考えを比較する場面】

《具体的な場面》

好きな色や食べ物、訪れたい国、外国の文化、将来の夢等の紹介の中で、教師やALT、学級の友達や海外に住んでいる人の話等を聞いたり、自分の考えを話したりしている場面です。

《対話的な学び》

- 他者の話を聞いたり自分の考えを発表したりすることで、気づきを共有し多様な見方に触れ、それらを認め合うことの大切さを体験的に学んでいます。
- 他者から得た情報や意見を基に、自分の考えをまとめたり再構築したりしているとき、「対話的な学び」が実現されていると考えられます。

《見方・考え方》

- 他者の話す英語を考えながら聞くと、「外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉える」という「見方・考え方」が働いていると考えられます。英語を聞きながら内容を考えられるような場面設定の工夫が大切です。

《活動が制限されている今、工夫できそうなこと》

○子ども同士の対話が減少するからこそ…

- ・実物や写真等を用いて視覚的に理解を助ける。
- ・新出の表現や語を別の表現に言い換えたり、既習表現を想起させたりする場面で子どもの声をよく聞き、全体の学びにつなぐ。

○マスク等で表情が相手に伝わりにくいからこそ…

- ・目の動かし方等で表情豊かに伝えることを意識したり、相手に自分の思いが伝わるようジェスチャー等を工夫したりする。

などの、教師、ALTによる豊富な例示（インプット）や子どもの言葉のつなぎ役がより重要です。

※ 参考資料「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善【理論編】

H30 栃木県総合教育センター



「対話的な学び」の視点で整理してみると、すでに取り組んでいる多くの活動が「対話的な学び」の実現にあてはまると思います。特に「聞くこと」「話すこと」の音声面での活動が制限される中、「対話的な学び」を充実させるために工夫できることは他にもたくさんありそうですね。

【Small Talk 等の対話的な言語活動の場面】

《具体的な場面》

好きな食べ物やスポーツ、行事や長期休暇の思い出、将来の夢等、児童生徒が興味・関心のある身近な話題について、自分自身の考えや気持ちを楽しみながら伝え合う場面です。

《対話的な学び》

- 互いに未知の内容を伝え合うために自分の思いや考えを表現することで、思考を表現に置き換え、「対話的な学び」が実現されていると考えられます。
- 聞き手に自分の考えを理解してもらおうと、効果的に伝えるための工夫をしているとき、「対話的な学び」が実現されていると考えられます。

《見方・考え方》

- 他者を意識して英語と内容を考えながら話しているとき、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築する」という「見方・考え方」が働いていると考えられます。話す英語と内容を考えられるような場面設定の工夫が大切です。

《活動が制限されている今、工夫できそうなこと》

○子ども同士の対話の機会や時間が制限されるからこそ…

- ・活動の前に、話す英語や内容を子どもが頭の中で整理するための時間をとる。
- ・活動の時間をあらかじめ決めることで、自分のことを話すだけでなく相手の話をよく聞くなど相手への配慮の意識を高めさせる。

○マスク等で表情が伝わりにくいからこそ…

- ・相づちを打つ、相手の話の中心になる語や文を繰り返す、一言感想を加えるなど「対話を続けるための表現」を意識させ、互いに考えや気持ちが伝わっていることを実感させ、安心感を持たせる。
- ・声の大きさや速さ、ジェスチャー等、聞き手への伝わりやすさや反応を意識させ、相手を尊重する意識を高めることにつなげる。

などの教師、A L Tによる働きかけがより重要です。

※ 参考資料「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善【理論編】

H30 栃木県総合教育センター



Small Talk は『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』で紹介されている対話的な言語活動です。「見方・考え方」が働いている姿の一つでもあります。活動の目的は、既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図ること、対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることです。小学校でこうした言語活動を豊富に積み重ねてきていますので、中学校でも継続して行っていただきたいです。指導法の小中連携で「対話的な学び」をさらに充実させましょう。

活動が制限されている状況で「対話的な学び」の視点を
充実させるために、他にどんなことが考えられるでしょうか？



例えば、子どもたちが意欲的に活動できるように、「主体的な学び」の
視点を生かして、こんな捉え方の工夫をしてはどうでしょうか。

【対面での対話ができない状況】

→「電話で話をする場面」と捉える。

互いに前を向き、下向き等で間を仕切り、
相手が見えない状況で話す活動をする事で、
伝え方の工夫を意識させることができます。



【近距離で対話ができない状況】

→「ドライブスルーや少し離れた相手と話をする（片方が電話などで手が離
せない状況等）場面」と捉える。

互いに適切な距離をとって話をする事で、
声の大きさや速さ、ジェスチャー等、聞き手
への伝わりやすさを意識させることができます。



【透明な仕切りやシールド等を使って対話をする状況】

→「入国審査の場面、市役所や役場の窓口対応の場面」と捉える。

今後もこうした対応は続くであろう状況の
中で、実際の対話でも注意することを考える
きっかけや意識付けにつなげることができます。



【短い時間で対話をする状況】

→「国際電話で話す場面」と捉える。

国内電話よりも通話料がかかるという状況から、短時間でも
要点をしぼって話すことを意識させることができます。



【一斉に対話をするのが難しい状況】

→「記録係（記者等）で会話を聞く場面」と捉える。

学級の半分が会話をしている間、残りの半分が
記録係として聞き役になります。会話の後に記録係が会話の
良かった点や改善点の助言をすることなどにより、注意して
人の話を聞く態度の育成につなげることができます。



実際の対話に近づけるような場面設定や意識付けの工夫によって、
コミュニケーションに必然性をより感じられるようになりますね。



そうですね。他にどんな工夫ができるか、職場の先生方とも考えてみてください。